

B-25 カーペットの手触りの良さに関する研究

東海学園女子短大 出羽 啓明

目的 カーペットの手触りの良さの判定時における動作分析から、総合的な触感特性である手触りの良さは、圧縮がたさ感覚、表面がたさ感覚、表面のなめらかさ感覚の3つが、基本的な官能量であり、それらの複合的官能量として手触りの良さが評価されていると仮定された。前報において、特に圧縮特性の面から触感に関する検討を行なった。本報では、主として、総合的な手触りの良さの評価と3つの基本的な感覚との関連性について、検討する。

方法 試料はウールカーペット8種。官能検査は一対比較法により各パネルに「手触りの良さ」、「圧縮がたさ」、「表面がたさ」、「表面のなめらかさ」について判定させた。パネルは種別生18名。解析は各パネルの評価の相関をもとにクラスター分析を行う。グループ化し、さらに手触りの良さと3つの基本的な感覚との関係を重回帰分析により検討した。

結果 1, 重回帰分析により、各パネルの3つの基本的な感覚による手触りの良さの評価のし方に違いがみられた。2, 本実験におけるパネルは、その評価の類似性から、ほごる3つのグループに別けられた。第1のグループは、手触りの良さと圧縮がたさ感覚のみでとらえ、第2のグループは、圧縮がたさと表面がたさ感覚の両方で、第3のグループは、表面がたさ感覚のみでとらえている。3, これらのグループはクラスター分析による群とほぼ一致している。4, 表面のなめらかさの感覚は、手触りの良さには、ほとんど影響していない。